



はじめのいっぽ

平成 30 年 5 月 30 日
幼保連携型認定こども園
東野田ちどり保育園
東野田ちどりキッズ
江川 永里子

おかげさまで 4 回目のつばめの巣立ちを応援することが出来ました。
今年に限っては、つばめのヒナが返った同じ時期に毛虫が発生し、毛虫駆除を行なう必要がありました。
ありがたいことに 4 羽のヒナは無事に大きくなり自分でえさを取りに行けるまで育ちました。

安堵する瞬間でした！！

このように自然界の中において「弱肉強食」の場面を子どもたちと共に
感じることが出来ました。

万一、薬を飲んで亡くなってしまった毛虫を親つばめがヒナに餌として
与えた場合…ヒナの健やかな成長が望めなくなることとなります。

そら組（年中）ゆめ組（年長）の子ども達には、
命の在り方について十分学ぶ機会となりました。

※つばめの定着した里帰りは、東野田ちどり保育園の職員の定着にも
比例しているなあ…と感じました。

10 年目の春を顔なじみのメンバーで仕事が出来ること、そこには「6つの要因」を
肝に銘じなければなりません。

あ・うんの呼吸がわかるメンバーだからこそ出来る保育を更に一步前進し、
挑戦し続けたいと思います。



～ アドラー より ～

子どもの不適切な行動にどう対応するか

1. 不適切な行動の文脈をよく観察しよう

今起こっている目先の問題を解決することだけを考えず、少し距離を置いて、冷静に子どもの行動を 観察し、「どんな状況のときにその行動をするのか？」「私は今までどんな対応をしていたか？」「私の対応の効果はどうだったか？」などのポイントについて、落ち着いてチェックしてみてください。

2. 不適切な行動に注目を与えない

不適切な行動に、正であれ負であれ注目を与えると、必ずその行動は続きます。不適切な行動には、一切注目しないでおきましょう。そのためには、マイナスの感情がなくなる工夫をしなければなりません。さしあたっては、その場を離れて気分を落ち着かせてはどうでしょうか。

3. 適切な行動をしたとき、正の注目を与える

不適切な行動に注目を与えないと同時に、少しでも適切な行動には、決して「当たり前」とは思わずに、正の注目を与えましょう。適切な行動に正の注目が与えられれば、子どもは「私には能力がある」「親は私の仲間だ」と感じます。そうすると適切な行動は増えていき、不適切な行動は自然に減っていきます。

4. 同じ状況での、より適切な行動の仕方を一緒に考える

子どもとの関係がよければ、不適切な行動のかわりにできる適切な行動を、子どもと一緒に考えることもできます。そのためには、まずあなたが成長して、マイナスの感情をもたないで子どもと話し合えるようにならなければなりません。

話し合うとしたら、あなたの考えを提案するよりも前に、まず子どもの考えをじっくりと聴いてみることです。多くの場合、子どもは答えを知っています。答えを知らなくても、話しているうちに、子どもが自分で答えを見つけ出すこともよくあります。もし答えを見つけ出せなくても、子どもの話を十分に聞いた上であれば、子どもはあなたの提案を聞いてくれるかもしれません。

～6つの要因

【今日の言葉】

会社(人生)がおかくなる
六つの要因

- 一、マンネリ
- 二、油断
- 三、驕り
- 四、妥協
- 五、怠慢
- 六、諦め

